



四 蜻 蛉

第四圖は豌豆と竹籤とを用ひて蜻蛉を作つたものである。蜻蛉の頭の豆は成るべく大なるものを取り、腹部のものは次第に小なるものを用ひる。又翅は稍下方に垂れ其の前端は頭部よりも前方に突出るや

うに注意せねばならぬ。最後に頭部より第二番目の豌豆の下方に、五分位の竹籤をさして、指頭に載せて動かすのである。

# 會員募集

東京保育協會

## 眩 惑

「あばたもえくぼ」といふ事がある。人が惑ふ時はとても常識の外である。惑ふものがあればそこに惑はせんとするものがある。人の弱點に取入つて、自分の利を占め様とするものもある。

土 川 五 郎

近頃は藝術の世の中で、猫も杓子も藝術といふ、藝術かぶれが、こゝそこに満ちて居る。これ故に藝術と名を冠すれば其本はよく賣れる。其物を見る人を多く吸込むことが出来る。遊戯にも、舞踊にも、繪葉書にも、人形にも、凡てが藝術の旗をひらめかす。

我々保育者は其數多きに迷ひ、其撰擇の餘融もなく、一寸面白い、一寸よいと、一寸式に取入れる。幼児に與へて見ると一寸喜ぶ。この薄つべらな喜びをこどもの深い心の底からの喜びとはき違へて先生も喜ぶ。これで藝術教育が出来た。世間に後れぬ保育をして居ると、自分だけ都合のよい解決して居らるゝ方もないではない。

數ある中には、眞に敬服すべき尊重すべき童謡もあり、曲もあり、遊戯もある。其かほりに一夜漬けのもある。其一夜漬けに一寸したよい香のあるがある。多くは其香に迷はされる。何かないか〜と新しがる人が、多く其香に迷はされて、ゑくぼとあばたの距りを近づける。殊に高尚な奥深い音楽や、色彩や、美に對する修養のある人は、其擇ぶ途を誤る事は少ないが、少しも素養のない低級の人程甚だしい迷ひを起すものである。

今童謡の事は述べずに、音楽と遊戯とについて一言して、御参考に供したい。

子供の音楽は、純正でなければならぬ。高尚で品がよく、且よく子供を捕へたものでなければならぬ。彼の民謡や俗曲の如き其物は決して悪いとは云はぬ。民衆的に大に發達せしめねばならぬ。併しこれを幼稚園に取入れる事は問題である。幼稚園は幼児を教育する場所である。教育といふ一つの綱でこして與へねばならぬ。一寸面白い調子、變つたりリズムに欺かれて、無條件で取入れて、純眞な藝術家である所の子供の頭を低級に導き、趣味を劣境に引き入れることは保育者として忍びない所である。

童謡にしても、眞面目なもの、曲も眞面目なもの、こゝに眞面目な子供が導かれねばならぬ。

遊戯にしても、子供の遊びとしては、相當の合理的根據がなければならぬ。子供が喜ぶから、あの振りが面白いから、

かゝる考へで取り入れて子供に與ふる事は、前に申した如く、大切な子供に、低級な趣味を與へて低くして行くものである。

子供の遊戯は、尠くとも子供の遊戯でなければならぬ。それ故に子供の心理子供の表情が基礎となつて、始めて子供に生活化し、子供の深い永續きのする喜びとなるのである。

幼児の教育には何故藝術を取入れるか、どの程度迄取入れべきか、如便なる平段の下に用ふべきか、それがどれだけの價值を有して居るか、これ等の問題に對して、過日岡山の大會で多少議せられた様である。私は不幸にして出席し得なかつたから其様子も知らない。唯近來世の中の弊は、保育界にも遺憾なく入り込んで居る様である。

靜かに過去を考へて見ませう。幼稚園の唱歌であれ、遊戯であれ、手工でも、製作でも、今更事新しく藝術がらないでも、既に／＼立派に藝術は加味されて居るではないか。唯其程度、其高さ、其美しさ、其感じが保育者の程度によつて其深さを保つて居るのもあれば、又空に婦して居るのもあつた。併し其胚珠はともかく植え付けられて居た。

然るに數年前から童謡が流行して來て、誰も彼も騒ぎ出した。作る人も、作曲する人も、本として賣る人も、種々雑多で其數實に驚くべきものがある。そこでこんどは之れに振り付けをする人も、童謡踊の童謡、遊戯とか、新舞踊とか、目先きをかへて之れを宣傳する様になつた。

私をともしると間違つた人が舞踊家であると云つたり、講習の廣告に書かれた事がある。私は舞踊家ではない。舞踊家は藤間、若柳、花柳、西川、片山、榎茂登、山村の様な諸である。其振付けをしても、決して大なる責任は持つて居ない。吾々遊戯を作るには、これを子供に與へて子供を教育して行くために作るのです、こゝに之れを子供に與へて其子供の將來迄影響を及ぼす事を考へて作らねばならぬ。

こゝが舞踊家と教育者の違ひで、此の點から私は矢張皆様と同じく、保育者であり、教育者であると考へて居ります。

舞踊家が一つの作品をするのに、實に人に知られぬ苦心が存するのであるが、遊戯を作るにはかゝる大なる責任感を以てなさねばならぬ。遊戯は其個性の現れである事からも自重せねばならぬ。

近來舞踊も子供のものを作られ、時々發表さるゝ事は眞に喜ばしい事と思ふ。我國の舞踊も一生面を開拓すべき運命になつて居る。其作られる子供のものが、未だ初期であるために、子供を捕へるのは尠なくて、唯子供は大人を小さくしたものとといふ考へに捕はれて居る事と、もう一つは日本在來の舞踊の形を脱し得ないで、矢張大人のものが多い。何とか脱却した新生面が欲しい様な感があります。

保育者の内でも、此の舞踊を少し手をかへて幼児に與へて居る方もある。舞踊家の作らるゝものは見せる爲めのもの、吾々が子供に與へるのは、子供自分が樂むもの（人から見ても面白いと感ずるや否や問題ではない。）こゝに相違がある。舞踊家の擇む曲は民謡又はこれに近いものが多いために、曲を擇む暇もなくして、之れを取り入れる事は大いに謹まねばならぬ。

私もある地方で此種の童謡踊りを見せられた事があつた。なさる方は若い女先生五六人で、見て居ると、〇〇の手踊を見る感じがした。少しも子供の気分にはなれない。そして其先生の曰く、「子供が喜ぶ」と。吾々保育者は小學校の先生より一步先きんせねばならぬ。何となれば一番年少者を教育するので、將來の遠いものを教へ導くのであるからである。

小學校が今は目ざめて、童謡も撰擇し、曲も高尚な品のよいものにより、目下低下せんとする藝術教育を防止し、これを高からしめんとし、大いに趣きを異にして來た。多くの音楽家も大いに此の點に務めつゝある今日、保育者がまだ覺醒しないで居る計りか、平氣で寧ろ得意がつて前者の轍を踏んで居つては、清淨無垢な子供に相すまぬが致します。

大いに此點をお互に考へて見たいと思ふ。